

産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会（第18回）

議事録

日時：令和5年5月24日（水曜日）15時00分～17時00分

場所：経済産業省本館17階第1特別会議室及びオンライン開催

出席者

三屋委員長、絹代委員、根岸委員、古野委員、松田委員（web参加）、山本委員
岩城オブザーバー、奥野オブザーバー、笹部オブザーバー、安田オブザーバー

議題

1. 競輪・オートレース業界の現状
2. 競輪中期基本方針の進捗状況
3. オートレース中期基本方針の進捗状況

議事内容

○橋爪室長 事務局を務めます車両室長の橋爪です。定時ちょっと前ですが、皆さんおそろいになりましたので、今より産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会を開催させていただきます。

本日は、皆さん御多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。会場には三屋委員長、絹代委員、根岸委員、古野委員、山本委員、そして業界関係の皆様、オンラインでは松田委員に御参加いただいております。なお、本日、絹代委員は御都合により途中退席されると伺っておりますので、あらかじめ御案内させていただきます。

それでは、開会に先立ちまして、山下局長から一言御挨拶いただきます。お願いいたします。

○山下局長 本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。開催に当たりまして、一言御挨拶させていただきます。

競輪・オートレース、これは長らく売上げが低迷しておりましたけれども、施行者やJKAをはじめといたします業界関係者の御尽力によりまして近年は回復基調というふうに伺っております。それによって、地方財政の貢献とか、補助事業を通じた社会還元も拡充

されているというふうに思っております。業界関係者の皆様に敬意を表したいというふうに思います。また、協賛レースを全国各地の競輪場で開催いただくなど、2025年の大阪・関西万博への開催にも多大な御協力をいただいております、当方としても深く感謝しております。

この会合は毎年この時期に開催をさせていただいておりますが、競輪・オートレースのこの1年間の取組状況と今後の取組方針を御報告させていただきまして、今後の取組についてアドバイスなどをいただくための会合でございます。

競輪につきましては、業界の中期基本方針が策定されてから約2年が経過したところでございますが、5年後の達成を目標として設定いたしました売上目標1兆円というのが早くも達成されたということでございます。これを踏まえて、業界において中期基本方針の見直しが検討されているところでございます。本日はその見直し案を御説明いただきまして、御助言をいただきたく存じます。

また、昨年10周年を迎えましたガールズケイリンにつきましては、これまで委員の皆様からいただきました様々な御意見、これを踏まえて、コンセプトを改めて見直すリブランディングの取組が進められているというふうに承知しております。こちらにつきましてもその状況を御報告いただきますので、御確認をいただいて御助言をいただければというふうに思います。

オートレースにつきましては、2025年度の目標額への達成状況に加えまして、事故対策の進捗など、中期基本方針の2年目の進捗を中心に御報告をいただきます。

委員の皆様におかれましては、競輪・オートレースのさらなる発展と社会還元の充実に向けて忌憚のない御意見をいただけますと幸いです。本日は限られた時間ではございますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

○橋爪室長　　続きまして、本日の議事、小委員会の取扱いについて御説明させていただきます。

本日の議事につきましては、議題1、競輪・オートレース業界の現状と課題を事務局から御説明させていただき、委員の方々からの御意見を頂戴したいと思います。その後、議題2、競輪中期基本方針の進捗状況と、議題3、オートレース中期基本方針の進捗状況のそれぞれを業界関係の皆様にご報告させていただきます。その後、委員の皆様にご議論していただきたいと思います。このため、オブザーバーとして、全国小型自動車競走施行者協議会・岩城事務局長、全国競輪施行者協議会・奥野理事長、JKA・笹部会長、日本競輪選手会・

安田理事長の業界関係者の皆様に御出席いただいております。

続けて、本日の小委員会の取扱いについて御説明させていただきます。本日の小委員会も、これまでの会合と同様にペーパーレスで実施させていただきます。メインテーブルの皆様におかれましては、お手元の i P a d とスクリーンで資料を御覧ください。オンラインで御参加の松田委員におかれましては、事前に事務局からお送りしております資料をお手元で御覧ください。資料は、議事次第、委員名簿、座席表、資料 1 「競輪・オートレース業界の現状と課題」、資料 2—1 「競輪中期基本方針の進捗状況」、資料 2—2 「中期基本方針 統合版（案）」、資料 2—3 「（別紙）日本競輪選手養成所における先端トレーニングの追求について」、そして参考資料「中期基本方針（追加方針）」、資料 3 「オートレース中期基本方針の進捗状況」となっております。なお、資料 2—3 「（別紙）日本競輪選手養成所における先端トレーニングの追求について」のみ、お手元に紙で御用意させていただいております。

本日の資料及び議事内容は公開となり、委員会についてはインターネットで中継されております。この場合、議事要旨については小委員会後速やかに公開、議事録については 1 か月以内に公開したいと考えております。

小委員会の取扱いについての御説明は以上となります。

それでは、以後の司会進行を三屋委員長にお願いしたいと思います。

○三屋委員長 ありがとうございました。

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

議題 1、競輪・オートレース業界の現状と課題について、まず事務局から御説明をお願いいたします。

○橋爪室長 では、資料 1 について御説明をさせていただきます。

1 ページ、次のページの表示をお願いいたします。競輪の売上げでございますけれども、令和 4 年度は 1 兆 908 億円となりました。対前年度比でプラス 13.1%と、引き続き好調を維持しております。販路別の内訳を見ますと、ネット販売などがプラス 17.1%と、例年同様ネット販売が競輪全体の売上げを牽引しております。また、昨年につきましては少しコロナ禍での外出の自粛規制が緩和されたということもあって、場間場外、本場の売上げが回復しております。そんな中で、サテライトと呼ばれております専用場外につきましてはマイナス 5.1%と、マイナス成長となりました。

次のページをお願いいたします。競輪の売上げの各施行者別の状況でございます。令和

3年度と令和4年度を比較したものですけれども、多くの競輪場において令和4年度は売上げを伸ばしております。各施行者の平均の売上額も224億円から254億円へと上昇しております。

次のページをお願いいたします。競輪の活動収支でございます。各施行者の決算が5月・6月頃になりますので、直近のデータが令和3年度の数字になりますけれども、350億円の活動収支となっております、このグラフを見ていただいても分かるとおり、近年ないほどの活動収支の額となっております。

次のページを御覧ください。これが施行者別の売上高と活動収支の状況でございます。データは令和3年度のもので、売上げを見ますと、一部の施行者を除いて大体売上げというのが200億円から300億円に収れんしているのですけれども、活動収支につきましては各施行者におけるコスト構造にそれぞれ違いがありまして、競輪場が民間保有のものを借り上げてレースをやっているとか、あるいは包括の民間への委託をやっているなどの状況によって支払いの構造なんかも違ってまして、そういうことから営業活動収支というのは結構差があるというような状態です。

次のページをお願いいたします。こちらはオートレースの売上げの状況です。オートレースも令和4年度は1,075億円の売上げとなりまして、対前年度比でプラス4.1%。競輪ほど勢いはございませんが、オートレースの令和4年度の目標額、これは1,050億円だったのですけれども、それは超えることはできました。内訳を見ますと、ネット販売がプラス5.5%、やはりここでも専用場外がマイナス成長となっております、マイナス11.7%というような状況となっております。

次のページをお願いいたします。オートレースの施行者別の売上げと営業活動収支でございます。令和4年度において売上げを伸ばしたのは浜松市と山陽小野田市でございました。浜松市はナイター設備がないので、近年オートレースで売上げを伸ばしているミッドナイトレースができないというハンデを背負っているような状態だったんですけれども、昨年につきましてはナイター設備がある山陽小野田市のレース場を借り上げてミッドナイトレースを開催させてもらったということで、売上げを伸ばしております。また、山陽小野田市自身も、ミッドナイトレースを多く開催することによって売上げを伸ばしているような状況です。

次のページをお願いいたします。オートレース全体の活動収支でございますが、こちらも令和3年度の数字が直近のもので、令和3年度の数字は24億円と、令和2年度に比べ

て伸ばしてはいるところではございますけれども、オートレースの場合はかつての売上げよりも少し伸ばして一服というような状態ですけれども、まだまだちょっと売上げが苦しいような状態でございます、引き続き売上げを伸ばしていくための取組、模索というのが必要な状況になっております。

次のページを御覧ください。オートレースにつきましては、昨年省令改正をやっております。省令の中で各オート場の年間の開催日数の上限というものが決まっております、グラフを御覧になっていただければ分かります、近年開催日数を増やしてきたこともあって、上限いっぱいまで各場でレースを開催しているような状況でした。このままではこれ以上売上げを伸ばすことができないという業界からの要望もありまして、開催の上限を緩和したところです。その関係もあって、令和5年度は多くの場において大きく開催日数を延ばしているという状況になっております。

次のページを御覧ください。こちらはギャンブル依存症対策への取組の様子です。ギャンブル依存症対策は基本推進計画というものがございまして、これが令和4年3月に閣議決定をされております。公営競技全体で足並みをそろえて取組を進めているところでございますが、ネット販売が非常に増えているということもあって、購入限度額システムの導入をしたり、あるいは広告・宣伝に当たって射幸心をあおるようなそういう広報はやらないように規定をしましたり、あるいは競輪場に置いてあったATM撤去というのをやっております。また、昨年初めてギャンブル依存症対策の研修会というものを開催して、様々な関係者を集めて、ギャンブル依存症というのはどういうものなのかという勉強会を開催しました。こういった取組は着実に進めていきます。

次のページ、お願いいたします。昨年の小委員会でも御報告させていただきましたが、大阪万博につきまして競輪業界は資金協力をしていくことを決めております。このような取組はかつて開催された愛知万博でもやっておりまして、JKAの補助事業ですとか、あるいは各施行者が全国で開催しております協賛レースでの収益の一部を博覧会協会に寄附するというような活動をしている次第です。左下の写真を見ていただければ分かります、協賛レースをやりますと博覧会協会からマスコットキャラクターなどがにぎやかしをやってくださるような状況になっておりまして、地元のメディアなんかにこの様子がよく取り上げられるような状況になっております。博覧会のPRにもなりますし、競輪のPRにもなるという形で、Win-Winな形で今取組を進めているところです。

次のページをお願いいたします。競輪の売上げが大分回復をしてきたということで、長

年にわたって大規模改修を控えていた各施行者が、このタイミングで大規模な改修をしていく動きがございます。ただ、現在の競輪場をそのまま新しくするというのではなくて、競輪場を取り巻く状況を反映しながら、競輪場の在り方というものを模索しつつ改修するような動きがあります。

1つ大きな事情としましては、本場への来場者というのが大きく減少しております。大體競輪場は1万から2万人ぐらいの来場者を収容できるだけの観客スタンドを持っていることが多いんですけども、現在競輪場は一日当たり平均で言うと800人ぐらいしか来場しないような状態ですし、G I レースをやっても一日4,000人から5,000人ぐらいしか来場しないというような状態で、明らかに観客スタンドが過大な状況になっております。こういった観客スタンドを取り壊して、身の丈に合った規模感に縮小しつつ、空いたスペースで何か地元の住民にも使ってもらえるような設備を造るというのが最近のトレンドになっております。

また、競輪場というのは大体1年間に平均すると60日ぐらいしかレースをやっておりますので、その間、選手が練習なんかもやっているんですけども、意外とバンクというのは空いている。そういうレース非開催日においては、競輪以外の何かイベントをやって住民の方に来てもらおうという取組も全国で行われているような状態です。競輪場というのは当然競輪をやる場なんですけれども、それ以外の目的でも使えるような設備にしていこうという動きが各施行者の中で模索されているというような、そんな状態です。

また、選手のほうに目を向けますと、選手の宿舎というのが昭和の頃から4人部屋なんですけれども、昨今のコロナ禍では三密回避というのをやっていかなければいけなかったわけなんですけど、これがなかなか4人部屋だとうまくいかなかったという問題もございます。また、女子選手も増えておりますので、女性のための設備というのも整備していかなければいけないという、そんなような状況があります。

次のページをお願いいたします。それで幾つか事例を御紹介させていただきますと、佐世保競輪場ではやはりメインスタンドを改修して、不要なスタンドは全部取り壊して、空いたスペースに憩いの広場「ケイリンパーク」というのを整備する計画を持っております。また、高知競輪場では、未利用だった車券売り場——これはかつては使っていたんですけども、来場者がどんどん減ってきたので、過大になった車券売り場というのが使われなくなっているわけなんですけれども、こういったところを小さな子ども連れでも楽しめる「ファミリールーム」に改修をするという取組が行われております。

次のページをお願いします。また、民間資金による大規模改修を行う事例も出てきております。大体競輪場の半数が今、民間事業者に包括委託をして運営をされている競輪場があるんですけれども、そういった包括受託をする事業者の中には自己資金で競輪場の大規模改修の費用を投資しまして、そして自分で改修した競輪場を自ら20年、30年という契約を結んで包括契約で運営をするという、そういう動きもございます。当然施行者がそういう事業をやりませんかという形で公募をするわけなんですけれども、そういう公募に対して応募する事業者がいるということなんです。それで、こういう動きに対しては大分施行者も関心があるようでして、この事例にある広島競輪場、ここは全面改修をしてアーバンサイクルパークとして造り変えるという、そういうイメージのものです。事業規模も100億円以上という非常に大きなプロジェクトになっています。広島市にはいろいろな施行者から問い合わせもあるようなんですけれども、こうやって施行者の関心もある一方で、こういう20年、30年という契約をしてしまうと、競輪場の経営のイニシアチブというものが民間事業者のほうにどうしても持っていかれてしまうという。それで、結果うまくいけばいいんですけれども、やはりうまくいかない可能性もあるということで、こういうのは慎重に考えなければいけないのではないかという意見もあるような状況です。ここら辺はもう少し様子を見ながら、良いものなのか悪いものなのかを考えていく必要があろうかと考えております。

次のページをお願いいたします。これは女子選手のための設備改修の動向でございます。昨年、ガールズケイリン10周年ということで、女子選手も180人ぐらいになりました。それで、各競輪場では女子選手のための整備というのも現在進んでいるようなところなんです。昨年、全輪協にお願いをしてアンケート調査をやっていただいた次第なんですけれども、トイレについてはまだ11場が男子トイレと共用をしているという場がありますし、浴室については23場、これは交代交代で浴室を使っているというような状態です。こういう場につきましても、今施行者のほうが積極的に競輪場を改修していく中で整備を進めておりますので、これは時間の問題かなと考えております。

次のページをお願いいたします。ここでは参考として、他の公営競技による改修事例を挙げさせていただいております。船橋競馬場、これは地方競馬ですけれども、これは競馬のビギナーとか若者・女性といった方々でも楽しめるように全面改修を行う動きがございまして、また、ボートレースについては、多くのボート場で子どもたちが遊べる、そういう遊具などを整備するような動きが取り組まれているような状況です。

次のページをお願いいたします。JKAの補助事業についてです。近年、競輪の売上げが急回復してきたということもあって、JKAにおける補助事業の予算も急上昇しているような状態です。予算が伸びているときは誰も文句はないんですけども、かつてのようにまた予算が急に下がっていくと、今度は応募している人たちの立場に立ちますと、やっぱり毎年採択してくれることを期待しつつ、イベントですとか、あるいは研究開発も何年か続けて支援してもらわないと成果に至らないというものもございまして、伸びているときはいいんですけども、また落ちてくるとき、そういう人々の期待を裏切ってはやはりついてくる人たちもいなくなってしまうという問題もございまして、これは売上げの変動に左右されずに予算措置できるような仕組みが考えられないかどうか、今JKAの中で検討をお願いしているような状況でございます。

私からは以上です。

○三屋委員長 ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。御意見のある方は挙手をしただき、私が指名した後にお名前を名乗ってから御発言をお願いいたします。なお、オンラインで御参加の松田委員におかれましては、Teamsの挙手ボタンを押していただきましたらこちらで順次指名をさせていただきますので、マイクをオンにして御発言をお願いいたします。

それでは、よろしくお願いします。根岸委員。

○根岸委員 根岸でございます。いつも大変お世話になっております。このようなすばらしい数字と伸びで、こういったオペレーションであったり企画をされている皆様には敬意しかありません。本当にお疲れさまです。ありがとうございます。

私からは1点、このような今すばらしい状況だとは思うんですけども、今後さらに伸びる、成長させていくために、やはりこのインターネットが伸びているのは非常にマーケティングがやりやすいかと思しますので、インターネットのチャネルを今後伸ばしていくことがいいという前提に立つのであれば、やはり年間でお客様のユニークユーザーの数掛ける単価で売上げは成り立っていると思うんですけども、そのユニークユーザーの中でもやっぱり新規の新しいお客様がどれだけいるのか、もともとのお客様がどれだけいるのか。もしそのうち新規のお客様が多いようであれば、今後まだまだ伸びる余地はあると思いますし、既存のお客様だったとしても、今度は単価のほうに移りまして、1人当たりの1回当たりに使う金額なのか、あるいは回数ですね、年間何回やっているのか、あるい

は月間何回やっているのか、その辺のレバーによっては何かすごくまだまだ伸び代があるように思いまして、今コロナが明けて、プロ野球のビジネスは戻りつつありますけれども、やっぱり80～90%の状況を鑑みますと非常にこの競輪はうまく進まれていると思いますので、そういったマーケティングとかが進んでいくとまだまだ伸び代はあるように私は感じました。——という感想になります。

以上です。

○三屋委員長 感想ということでよろしいでしょうか。

○根岸委員 はい。特に御質問というよりも感想ということになります。

○三屋委員長 ちなみに、データとかってどなたが管理されているんですかね。こういうネットで販売されている、ネットでお買い上げいただいている方のデータは。

○奥野理事長 全輪協の奥野でございますが、私からお答え申し上げます。

今の根岸委員、それから三屋委員長からのお話につきましては、そういうインターネットでの売上げの内容についての分析が大変不足している状況でございます。今現在は、どの年代で男女別に一日当たりどれぐらい使ったかというぐらいの資料しか、実は民間ポータルから来ておりません。これは後から、私ども業界の取組の中にも出てまいりますけれども、もう少し賭け式別にどうなのかとか、時間帯別にどうなのかとか、あるいは曜日別にどうなのかとか、そういうような詳細な売上げ資料を民間ポータルから今後頂戴して、それをJKAさんとともに解析して、今後の競輪事業の振興に充てていきたいというふう考えておるところでございます。

以上でございます。

○三屋委員長 ありがとうございます。

○古野委員 古野でございます。データに関しましてちょっと追加で意見を申し上げますと、今まさにおっしゃったとおり、売れ筋とか、売れている時間や単価、当然マーケティングに使うデータ等を併せて、どうせ取られてやられるのであれば、この事業に関わっておられる方の労働時間ですとか、あるいはどういうところで人が採用できているとか、あるいは辞めていっているかとかも含めた、いわゆるマーケティングとCX (Customer Experience) ということになりますとお客様側ばかりのデータになりますけれども、やはり働いている側のデータを取って、働いている方の働きやすさとかいうのも当然SDGsにつながってくることでもありますので、そこら辺も通じて、今世の中ではEBPMと言っていますけれども、エビデンスをベースに政策を決めていくというところを強化されては

どうかなというふうに思いました。

以上です。

○三屋委員長 ありがとうございます。それについて。

○橋爪室長 では、私のほうからも少し。

一般的に競輪場での業務の状態というのは昼間に働いている方が多かったですけれど、最近ではミッドナイト競輪が増えてきている。これはオートレースもそうなんですけれども、ミッドナイトが増えてきているということで、誰か現場にいないといけないということで、「誰が張り付いているんですか」って聞いたことがあるんですけれども、「管理職の人がずっと張り付いています」という話を最近聞きました。まあ、管理職の人は残業手当はつけないでいいという事情もあって、結構ミッドナイト競輪ってブラックな事情になってきているんだというのがうかがい知れるようになってきているので、これはもうそろそろ各競輪場・オート場で恒久的な体制というのを考えていかなければいけないのかなというふうに、そのときは私も考えておりました。おいおい皆さんと意見交換しながら、どんな状況になっているのかを把握していきたいと思っています。

○古野委員 ちょっと余計なことをもう一つ。やはり今の働き方というところに行きますと、やはりこの業界で働きたいとか、この業界に人が集まってくる大変重要な条件だと思いますので、どんどん業績も伸びて、そのことが補助事業ですとか世の中のカーボン・オフセットにどんどん向かうとは思いますが、やっぱり働きたい環境、楽しい職場というのもイメージとして非常に大事だと思いますので、今のお話も含めてちょっと前向きに御検討されたらどうかと思います。

○三屋委員長 ありがとうございます。非常に多面的に捉えないといけないということですね。ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。山本さん、どうぞ。

○山本委員 山本です。

本当に、売上げ、それから営業活動収支も順調に伸びているということで、この後、中期計画の再度見直しというのがあると思うんですけれども、売上げの増も、本当にコロナ禍ですごい、ほかの競技を上回る伸びですけれども、改めてこの資料を見ておきますと、この営業活動収支の伸びももっとすごい伸びになっている状況ですけれども、これについては何か業界のほうで、どうしてかみたいなお話というのは出ていますでしょうか。

○奥野理事長 全輪協からお答え申し上げます。

先ほど4枚目の資料にあったかと思いますが、平成30年度が169億円、それから令和元年度が153億円と、ここは下がっておるんですけれども、令和2年度になって急に271億円、そして令和3年度が350億円と。ですから、令和2年度、令和3年度の伸びが非常に大きい状況になっております。これはやはりコロナ禍の反射的利益というんでしょうか、無観客開催が増えたり、あるいは先ほどの話ともちょっと絡むんですけれども、ミッドナイトのレースが増えたらこれはお客さんが入りませんので、その分警備等の費用が減ってまいります。そういった部分ですね。コロナの影響とか、あるいはお客さんがいない時間帯、モーニングとかミッドナイトの時間帯でのレースが増えたことの反映なのかなというふうに捉えております。

○三屋委員長　　よろしいでしょうか。

すみません、松田委員、お願いします。

○松田委員　　ありがとうございます。様々な施策のおかげでこれだけ成績が上がっているということで、施行者、自治体側の皆さんがこの変化をどのように受け止めていらっしゃるのかということや、あるいは様々な施行者間での今後の在り方についての情報共有がどのように行われているのかをお聞きできればと思います。特に施設への再投資等については、どこの自治体も大変今後のことを考えると悩ましいと思いますし、あまり来場者が増えていない中でなかなか実感が湧かないところもあるのかと思いますので、その辺り、もし何かありましたら教えてください。

○三屋委員長　　ありがとうございます。それにつきましては。

○奥野理事長　　全輪協からお答え申し上げます。

施設への再投資ということに関しますと、今年の1月時点なんですけれども、私どもが調査いたしますと、その場単位で1億円以上の比較的大規模な施設の改修を行っている場が13場ございます。また、競輪事業の特別会計を各自治体の中で設けて事業運営しておるんですけれども、その特別会計の中で将来の投資に備えて基金――貯金をため込んでおるんですけれども、この額も令和元年の2019年度はその積立額が78億円、それから令和2年度が124億円、令和3年度が171億円ということで、収益が出た分、基本的には一般会計に繰り出してその自治体の財政に寄与するという部分が大きいんですけれども、ただ、それだけではなくて、今のような多くの場で、全国13場で施設改修に取り組んでいるとか、あるいは基金の積立ても徐々に増えているということは、やっぱりちょっとそこら辺は将来を見越して各施行者さんとも取組が始まっているのかなというふうに考えておるところで

ございます。

○三屋委員長 ありがとうございます。松田委員、よろしいでしょうか。

○松田委員 はい。ありがとうございました。

○恒藤審議官 施行者の情報共有の話が御質問にありましたが。

○奥野理事長 今の売上げが伸びている要因について、私ども全輪協の中の各種会議を持っておるのですけれども、そういう中で私どもが協議して話し合っておりますのは、今の売上げの伸びというのは3点あるだろうと。

1つは、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、モーニングであるとか、ナイターであるとか、ミッドナイトであるとか、従来売っていなかった時間帯での新しい商品を、JKAさん、選手会さんの御理解もいただいて、約10年前から展開してきた。これらのレースというのは実はインターネット投票と非常に親和性がある事業でございまして、それで民間ポータルの活動が増える中で売上げが伸びている。

それから、もう一つは、やはりコロナ禍で巣籠もり需要が増えたと。これは我々業界にとってはいいほうに行っているのかなというふうに考えております。

それから、もう一つは、民間ポータルの体制。従来3つの事業者がインターネット投票を実施しておったのですけれども、2019年度からW I N T I C K E Tが第4のポータルとして入ってきて、ここが従来競輪の車券購入なんかに当たっていない若い20代、30代の若年層。しかも、特にミッドナイトレースに力を入れて売上げを伸ばしてくれたというようなことで、業界が新しい商品を用意できていたこと、それからコロナ禍での巣籠もり需要、それからやはりW I N T I C K E Tの新たな参入と、この3点が今の売上げ増につながっているのかなと。ただ、巣籠もり需要というのはもうそろそろ底を打ってしまして、実際また後から出てこようかと思えますけれども、令和5年度に入っの売上げというのは若干伸び悩みの傾向が見えてきております。これなんかについてどう対応するのかとか、あるいはもっと中長期的な視点で申し上げますと、日本の人口構造、高齢化が進んで、必ずこれから人口減の社会に入っていきます。そうすると、今までのような右肩上がり、これまでのような右肩上がりの競輪の売上げというわけにはいかないのかなと。ここら辺のところも、今若干余裕があるときだからこそ、今後私ども全国団体が中心になって、各施行者さんとも対応策について協議していく必要があるのかなというふうに考えておるところでございます。

○三屋委員長 ありがとうございました。

○絹代委員 私からはちょっと感想に近い形になるんですけども、皆さんがお話しされていたように、本当に右肩上がりで成長されていてすばらしいなというふうに思いました。今まさに全輪協さんからお話があったように、恐らく今、世の中の皆さんのお金の使い方が次第に家の中からリアルに変わってきていると。その中でこのインターネットが非常に伸び、場も20%増えているということではあるんですけども、やはりこの会でもずっと議論してきたように、場に人が来る。皆さんのお金の使い方が今、競輪でなければならぬという形で若者層が競輪に投票しているわけではないと思うんですね。コンテンツとして非常にマッチしたから。その生活形態が変わってくると、では次に競輪を選んでもらえるのか。そうなってくると、商品の魅力、買いやすさもそうなんです、やっぱりレースの魅力であったり、選手一人一人の魅力をいかに高めていくか、そこがないと、今お話があったように人口がだんだん高齢化してきて、お金を自由に使える層がシフトしてきたときに残れないのではないかなというふうには感じます。

プラス、資料の中に場を地域に開いていくという話がありました。これは私は大いに賛成で、やはりそうやって地域の人たちに認められていって、休日や時間を過ごす場所が変わってくるとか、そういったものも非常に重要だと思うんです。ただ、この資料を見ていく中で、ボートレースがボーネルンドさんでキッズエリアを造っているというのを見て、何というか感度が違うなというのを感じました。そこで、今こういった、例えば場に今の人たちを呼び込もう、選手たちの魅力度を高めようといったときに、どういったスタッフの方々が意見を出して、アンテナを張って、何が響くのか、どんなものだったらみんなが行きたい、見たい、その場で感じたいというふうに思ってくれるのかという話合いがされているのかなというのも、少しこのエリアから感じ取ったところではあります。ぜひこれから場のにぎわいを戻していくために、いろいろな意見を吸い上げてというか、これまでとは違う種類の方々の意見とか、そういったものも取り入れながら、より魅力度を上げていただけたらなというふうに感じました。

私からは以上です。

○三屋委員長 ありがとうございます。最後にまた御意見を頂戴する時間を取らせていただきますので、またお願いいたします。

また、今、絹代委員が言われたことに関して私も非常に思うことがあって、例えば、後ほどもしお時間があつたら根岸委員から聞きたいことがあるんですけども。川崎球場という、もの凄く人が寄りつきたくもないようなところが非常に、閑古鳥が鳴いていたのが、

もの凄くファンサービスによってたくさんのファンの方々がわざわざ足を運んでいただいているというところの激変というのは何かいろいろあったと思うので、もしお時間が残ればぜひその辺りの御意見をお聞きしたいなというふうに思います。すみません。

では、続きまして議題2、競輪中期基本方針の進捗状況について、JKA、全輪協から御報告をお願いいたします。お願いいたします。

○笹部会長　それでは、資料2－1につきまして御説明を差し上げたいと思います。

おめくりいただきまして、まず1ページ、目次がございます。この内容は17ページに及ぶわけですが、資料の説明の中で資料が前後すること、また、中には映像が入っておりますので若干戻りがあるのですが、よろしくお願いします。なお、この内容につきましては全輪協と共管した内容がございますので、別途別ページについては後ほど奥野理事長のほうから御説明を加えさせていただきたいと思います。

ページをおめくりください。まず、目標達成状況ということでございます。既に今まで触れたとおりでございますが、中期基本方針の2か年の取組状況においては、既に御覧のような数字を出しております。ただ、この2か年の取組状況については、後で御報告をそれぞれさせていただきたいのですが、やはりコロナという特殊な要因があったこと、ただ、プラスの面もありました。これは様々なこのコロナ禍の中で、また無観客、こういった形で売上げを維持・向上させるかという様々な取組がこの期間の中で行われました。その部分で、今までやってこなかった部分の功罪が数字として表れたというところが、この内容それぞれについて触れていきたいと思います。

まず、1兆908億円という数字。また、目標額についても230億円という内容で既に到達したということから、この見直しを行います。それで、1兆円の目標額の再設定をこの中で行いながら、中期基本方針に追加、加えて、さらなる高みを目指すというような考え方でこのページ、この前文をまとめております。

次のページをお願いいたします。3ページでございますが、これはチャネル別とグレード別の売上げということで、先ほど来様々な角度から、どのような分析をしているんだというような御意見を頂戴しております。まさにチャネル別の部分では、左で見るとおり、電話・インターネット投票の、特にインターネット投票部門が117%増えましたということ。それに反して、現金系、これが御覧のような数字であったということでございます。

それでは、そのインターネットの伸びの部分でございますが、グレード別で見た場合にどうだということで、コロナ前の2019年、これは6,605億円という部分と、2022年、これは

1兆円を超えた数字。このそれぞれの色合いの分布がどのように見えるかというものを色で示したものです。J K Aといたしましては、様々な競輪種類、これをモーニング、時間帯でいうと朝8時半前後から、ミッドナイト、最終レースの11時半、様々な時間帯で様々な競輪種類を365日行っているということで、この分布のバランスという部分を見たときに、下からG P・G I・G II、またオレンジのG IIIという部分、これが大体全体の3割ほど。また、F Iという部分も約3割ということ。それで、最大の選手を使ったレースが水色というか青色のF II。これは様々な形態で開催されたということで、4割。逆の見方をしますと、1兆円の割合がこのような状態になっているということから、今後売上げを上げていくためには、レース単価または参加者数、そのような部分をどういう形で最適化した商品の配列を行っていくか。この中には選手数との関係、また執務する側の関係、それぞれあって、その部分のバランスをどのように取っていくかが今後の課題になると、このように認識しております。

それでは、4ページをおめくりください。ただいま申し上げたとおり、F IIの部分、これが2019年以前は赤字を生み出す最大の要因であったという部分が、ここ10年の中で様々な、このF IIの開催に関する効率的な考え方、またはお客様の思考というものを捉えて、例えば7車立、または発走時間を朝早く、または夜遅くということで、バランスを取りながらやった結果、一番伸びたというのがこのF IIの一日平均売上額というところから読み取れるのではないのでしょうかということでございます。

また、グレードレースも、総日数・節数が変化するわけではないのですが、先ほども御質問が上がった部分で、インターネットの新規お客様が難しいとされるグレードレース、これへのシフトですね。非常に、ラインをどう読むかとか、新しいお客様にはなじみが薄いということで、今までの傾向はややもすると7車立のほうをお客さんが結構買われていたというところから、ここ1～2年の中では、そのお客さんが理解を少しされて9車立のほうに挑戦してきた。こういうような数字がこのグレードレースの一日平均売上を押し上げた要因ではないか、そのように考えております。

次のページ、5ページをお願いいたします。この内容につきましては、この取組の中でJ K Aが売上げから頂戴しております交付金の部分を最大化していくというミッションの中で、補助事業の交付金額の決定額については左の欄にあるとおり伸びたということですね。売上げに比例して伸びたと。また、採択件数も伸びましたという内容でございます。ただ、これをさらに周知していくためには、競輪場またはサテライト、そういったところ

で、伝達式ですとか説明会ですとか、やはりこの競輪事業の社会貢献という認知に関しまして、場を拡大して展開しているというようなことを試みました結果もあるのではないかと考えております。そういう意味で、この取組の結果、申請件数は伸びたということでございます。今後、先ほど資料の説明の中にありました、安定した交付金という部分をどのように担保しながら補助事業を扱っていくかということが今後の問題となっておりますので、またこれは外部審査評価委員会のほうで御意見を頂戴しながら進めさせていただくと、このように考えております。

6 ページをお願いいたします。デジタル戦略という内容になっておりますが、基本的にはインターネット投票の部分が、この参考資料、民間ポータルサイトのみを掲載しておりますが、先ほど来申し上げたとおり、年代別の購入額がどのような状況・分布があったかということで、御覧のとおり、ターゲットというのが20代から40代を今回の中期基本方針の中で取り上げておりますが、見てのとおり20代から40代が主力になっていると。一方、高齢者、60歳以上、これがシェアとすると少なかったと。ただ、これも分析する部分を今後控えておるのですが、少なくとも昔からやっておりますオフィシャルサイト、CTCと称しております。これについての分布は、いささかこの民間ポータルのシェアとは反比例する状態で、60歳代以上が約4割ほどおります。一番年代層が高い人が一番買われているということで、このCTCの売上げ、こういう部分が様々な競輪種類の売上げを前後しているという状況もかいま見えたところでございます。

7 ページをお開けください。これも商品開発ということで、これまで取り組んできた成果という部分でございます。まず、グレードレースのナイター化ということで、①はオールスターの競輪の売上げを示したものです。2022年度は前年比に比べて109%増また、2021年度は前年比——いずれにしても前年比増を達成しているという状況で、GIのオールスターのナイター化はある部分成功と。また、GⅢのナイター売上げにつきましても、これは函館で行われた内容ですが、過去最高の54.8億円ということを達成したということでございます。また、今回の試みの中では、③のミッドナイト。これもS級戦の試行開催を3回実施した結果、右のほうに掲げてあるとおり、それぞれの売上げが通常のFⅡで行っている売上げの一日平均を上回ったということで、今後の取組としてはこの辺りを探りながらレースの拡充をしていきたいと考えております。

8 ページをお願いいたします。これも商品開発という内容になります。ただ、商品という部分では、競輪は人間が走るスポーツ。そういう意味では、裾野の拡大、底辺の拡大、

または競輪競技の認知という視点で捉えていかなければならないということで、各地で底辺拡大事業を展開してまいりました。そういう意味で、地域の選手発掘を努めてやってきたものの、まあ、そうすぐには募集人員は増えてこないと。これは部活の問題もあるんですが、自転車競技はなかなか、道具ですとか場所や環境を選ぶ部分がございますので、この辺りの取組は何としてでも進めていかないとしぼんでいくという、少子高齢化の問題も控えておりますので、この辺の魅力をどうやってつくっていくかということで、本日お手元に先端トレーニングの内容について資料を置いております。

ページを開けていただきますと、これはイメージになっているんですが、伊豆の修善寺に養成所がございます。これは既に1968年から54年余を経過しておりまして、極めて老朽化しております。この辺を効率よく、トレーニング施設または宿舎、動線をどのような形でやるか。また、10か月に及ぶ養成生活を、これからの世代の方はどういう居住スペースでやればよろしいのか。要するに、コミュニケーションをつくりながら練習効果を最大限上げて、自主性を重んじる。こういったような視点で、改めてこの施設の内容を見直そうということ。また、先端トレーニングについては、既に東京オリンピックを契機に、ハイパフォーマンススポーツセンターとの連携協力ということで科学的トレーニングは進めているものの、これを一体的なトレーニング施設として、2025年5月竣工を目指す取組を開始しているところでございます。

また資料が前後します。9ページをお開けください。9ページにつきましては映像管理関係でございますが、これは後ほど全輪協のほうから御説明をさせていただきたいと思っております。

10ページをお開けください。10ページにつきましては、プロモーション関係でございます。プロモーションにつきましては、様々今まで取り組んできたものの、一貫性がないといったような御指摘も当委員会で頂戴しておりまして、これについても改めて取り組んできたところでございます。2022年度、競輪ブランディングCMは、「インパクトがある」、また「競輪のイメージに合っている」というようなことで、「こんなスポーツ、他にないだろ？」シリーズを展開しております。2023年度の新CMも同じフレーズ・表現方法をシリーズ化して、CMイメージの浸透を図ってまいりますということでございます。

また、左下にありますスポーツ競技としての競輪の魅力発信の可能性というところのテーマを我々は考えております。具体的には、後ほどビデオを用意しておりますのでそれを御覧いただきたいと思いますと思いますが、このビデオにつきましては昨年行われましたKEIRI

Nグランプリ2022、また今年行われました伊豆の卒業記念レース、この部分を360度自由視点映像ということで、初めてKEIRINグランプリ2022において中継をしたものという内容になっております。

映像を出していただくわけですが、これは117台の高性能カメラでマルチアングルの3D映像をつくり出した映像でございます。御覧いただきたいと思います。どうぞ。

(映像上映)

ここまでのほうがKEIRINグランプリ2022の模様。今映しているのが卒業記念レース。これは外側からのものですね。これは女子の決勝レースです。

もう一度お流してください。これはKEIRINグランプリ2022ですが、4カットしておりまして、これは前のほうから見た映像です。これは内側からゴールに向かって走っている映像。これは後ろからゴールに向かって、それぞれの選手の動きが出ている映像。これは真上から見た映像、真下から撮れた映像。このような映像でございます。また、これは外側からの映像。これは内側からということで、実際今までの競輪の映像という部分とは全く異なる映像。これを今後、どのような心境で選手はゴールを目指したか。今見ていただいたのは4コーナーという一番最後の、横1列で並ぶ動きが激しいところでございますので、その辺の躍動感等はこういう映像を通して体験していただくと。このようなことの実現を現在行っているというところでございます。

それでは、もう一度資料2-1の11ページを御覧ください。これは、ガールズの昨年10周年を迎えたリブランディングという部分でございます。このコンセプトを改めて当委員会においても見直すべきであるということで、様々な取組をやってまいりました。一番左のほうに「プロスポーツ競技のまんなかへ」という、この4つの内容につきまして、それぞれ、今現在、昨年から具体的な方針を決めながら、さらにこの「プロスポーツ競技のまんなかへ」という部分を進めていくという内容になっております。

12ページをお願いいたします。12ページにつきましては、昨年それぞれ取り組んだ内容を4つの箱でまとめております。まず、1番目についてはガールズケイリンということで、今までの表現を改めたという内容になります。また、右の②ユニフォームのリニューアルについても、スポーティーさを出したデザインということで、競技志向のほうにシフトしたという内容。また、左下の新CMの制作放映ということで、これもまた今ビデオを用意しておりますので、後ほど見ていただきたいと思います。また、④としては、今年度からGPグランプリを頂点とする女子のグレード制を設定しました。6月にはパールカップ、

10月にはオールガールズクラシック、11月には競輪祭女子王座決定戦ということをして、モチベーションを高めた競走の展開を期待するように、体系の構築を行いました。

それでは、現在放映中のガールズケイリン新CMを御覧いただきたいと思います。お願いいたします。

(CM上映)

サングラスを通して、様々な職歴を持つ方がこの女性アスリートで活躍しているんですという部分。または、自転車競技というものを通した躍動感あるものとして仕上げ、ラップ等の楽曲なんかも合わせながらイメージチェンジを図っているという内容になっております。

それでは、13ページをお願いいたします。このような取組の中で、目標達成を前倒しにした要因分析というものを考えたときに、今、左にあるとおり、売上成長要因はどんな部分であったのだろうか。また、Bとして、2か年の取組という部分で、さらなる課題または追加するものがないのかどうか。また、3点目、環境変化という部分で、既に昨年暮れから今年にかけてやや鈍化した売上げという部分で、今後のwithコロナという視点を踏まえながら、追加する取組方針というものを右にあるとおり5つのボックスにまとめております。「顧客ニーズを捉えた商品ラインアップ」というのを追加方針①、②として「ガールズケイリンのリブランディング」、③として「2025年日本国際博覧会の支援」、④として「施行者収益情報に係る課題解決」、⑤として「民間ポータルサイトとの新たな協力関係の構築」ということで、次のページをお願いいたします。

まず、1番目、商品ラインアップ。これについては先ほど来、売上げの増加要因という部分を述べてまいりましたが、今後顧客ニーズの分析に基づいて、グレード——これは出場する選手にも関わること。また車立、または開催時間、そういったような部分の組合せ、多様な開催計画を策定し、多様化するような商品、それぞれの顧客ニーズに合ったような部分を各時間帯で効果的に配置していく。このような戦略を①として考えております。

また、ガールズのリブランディングは、継続してさらなる拡充を図っておりますが、そうはいってもハード面の施設整備が十分取られてないということで、レースの拡充とともに施設整備が急務ということと、応募者数の増大・拡大、そういう意味で、それを通し、女性メジャースポーツとしての向上を目指すという考えでございます。

また、③の大阪万博関連でございます。これは支援要請を受けた中で業界としても最大限協力していこうということで、様々な支援策を講じながら、競輪、また補助事業の認知

拡大、イメージアップを図っていくものでございます。

次、15ページでございます。これにつきましては、後ほど全輪協・奥野理事長のほうから御説明を差し上げたいと思います。

16ページをお願いいたします。これは2025年度までの売上げ予測という部分の、まず下地の部分になります。社会情勢という部分。こういうことがありましたよねと。ただ、グラフにあるとおり、月別の売上成長率が鈍化している状況が左の状況。ただ、他の公営競技はどういう状況かと。それぞれ違いがあるもので、一概に比べる必要性はないのですが、他の公営競技もむしろ反転攻勢を狙う部分、こういう形がある以上、競輪業界・オートレース業界としてもこの分をどういうふうに挽回していくか、今後の課題としております。ただ、下にあるとおり、2025年度の売上目標予測値を考える際に、2022年度は1兆908億円ということで、2025年をどういうふうに考えていくかというのが次のページ、17ページをお願いしたいと思います。

今現在、2022年度の1兆908億円については、昨年と比べると106%の伸びでありました。ただ、この106%を、2023、2024、2025にもというわけにはいかないだろうということで、暫時漸減したパーセンテージを掛け、さらに様々な政策を追加することによる売上げ増加を期待して、1兆2,200億からさらに300億円をこの新たな施策効果ということで、1兆2,500億円を新たな設定値にするということ。また、施行者収益目標もそれに応じた金額、450億円を目指すという形を今回業界として考えております。この内容につきましては……これは一旦切ったほうがいいですか。一旦切りましょうか、資料2。ここの資料2—1についてはまず奥野さんのほうにやっていただいて、その後、資料2—3のほうを。

○三屋委員長 はい。

○笹部会長 では、お願いします。

○奥野理事長 それでは、すみません、9ページのほうに戻っていただきたいと思います。9ページの映像管理・販路開拓について御説明をさせていただきます。

競輪のレース映像などにつきましては、これまで制作者でございます個々の施行者が管理しておりまして、商用利用とか不正使用に対する統一した管理基準がございませんでした。そこで、競輪業界としても適切な映像の運用管理を行うことを目的に、昨年4月1日に全輪協とJKAさん、選手会さんを含めた3団体の出資によりまして、株式会社ジャパン・サイクル・インフィニティ（JCI）を設立したところでございます。JCIは、施行者からレース映像の集中管理業務の委託を受け、個人や法人からの映像利用申請に係る

許諾を行ってまいります。映像の商用利用の主な申請者でございます民間ポータル各社とは今年の3月に映像利用料について合意をしており、不正利用の監視など、管理業務につきましても業務を開始したところでございます。今後につきましては、この8月1日をめどにY o u T u b e による民間ポータルへの映像配信を開始し、来年度に向けてはポータル各社の要望に沿った映像配信方法に 대응されるよう、映像配信システムの構築を進めてまいります。

次に、その下、販売チャネルのインフラ整備につきましては、場外発売の拡大などを目的として、現在施設整備等協賛競輪を開催しております。その収益の一部を施行者に助成し、競輪場の発売機器の整備等を進めております。令和3年度から令和8年度までの6年間に年間3～4回ずつを開催し、合計で21億5,000万円程度の収益を見込んでおりまして、これを原資として1競輪場当たり5,000万円の助成を行い、投票機の拡大等に努めてまいるところでございます。

次に、その下、民間ポータルサイトが競輪業界の施策に協力する仕組みについてでございます。今までもお話に出てまいりましたように、今や民間ポータルによる売上げが競輪車券売上げの大勢を占めるというような状況になっておりまして、私どもといたしましても民間ポータル事業者は競輪事業の運営をともに担っていく重要なパートナーであると考えております。一方で、競輪事業の目的は施行者収益を通して公益や地方財政に寄与することであり、競輪事業の目的や自転車競技法の趣旨を御理解いただいた上での事業活動というものが必要になってくるというふうにも考えてございます。この3月に車券発売の委託料率の削減について一定の進捗を見たところでございますけれども、引き続き民間ポータルとは委託料率の協議を行うとともに、民間ポータルが競輪業界の施策に協力する仕組み、例えば今回のコロナ禍の、このコロナ等の感染症への対応であるとか、あるいは大地震の発災に備えた対応であるとか、あるいはポータルとの共同のCMであるとか、あるいは今現在、先ほど360度映像がありましたけれども、レース映像そのものの高品質化であるとか、あるいは先ほど来出ております女子選手の増加に合わせた施設改善、こういった今後の業界あるいは競輪の振興に寄与する部分に民間ポータルとしても御協力いただくような仕組みづくりを進めてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

続きまして、15ページを御覧いただきたいと思います。中期基本方針に追加する部分の④「施行者収益情報に係る課題解決」についてでございます。各施行者は現在、経産省さんの通達に基づきまして、それぞれの競輪事業の収支を報告しております。ただ、現在の

報告方法では各開催節ごとの収支の集計が困難であること、また、先ほども出ましたけれども、包括委託をやっている場、やっていない場等がございまして、様々な費用の計上方法が施行者によって異なる等の課題がございます。また、様々なデータの集計と開催単位ごとの損益分岐点の分析などに的確に取り組むため、この報告方法の見直しにも取り組んでまいりたいと考えてございます。

それから、⑤「民間ポータルサイトとの新たな協力関係」につきましては先ほど9ページで申し上げたとおりでございますけれども、それに加えて、そこには書いておりませんが、民間ポータルから協力をいただくだけではなくて、民間ポータルの活動が売上げ増に結び付く仕組み、あるいはポータルがこの業界でより活動しやすい仕組み、例えばポータル杯の創設でありますとか、あるいは今は施行者とポータルの契約関係というのは単年度契約ですけれども、これを複数年度契約にしていくとか、そういったポータル側が活動しやすいようなそういう取組にも取り組んでいけたらなというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○三屋委員長 ありがとうございます。

続きまして、議題3、オートレース中期基本方針の進捗状況について、全動協から御報告をお願いいたします。

○岩城事務局長 全動協の岩城でございます。

それでは、資料3、オートレース中期基本方針の進捗についてを、資料に沿って御説明させていただきます。この基本方針は2021年度からの5か年を計画期間といたしまして、本日はその2年目の進捗を中心に御報告させていただきます。

1ページをお願いいたします。この方針の策定時、2025年度までに目指すべき目標といたしまして、売上げで1,200億円、開催予定日数で670日、施行者の営業活動収支で計18億円の3点の達成を掲げておりました。

先ほどの説明と大分重なるのですが、2022年度の事業トピックの1点目でございますが、2022年度の売上げは中間目標であります1,050億円を上回る前年度比104%の1,075億円となり、最終目標の1,200億円に向け順調に推移しているところでございます。この増加した主な理由でございますが、次に記載いたしました開催日数の増加によるものが主な原因でございまして、また、発売チャネル別で申し上げますとネット投票の増によるものが大きな要因でございます。

また、2点目といたしまして、2022年度の開催予定日数は既に672日に拡大しており、最終目標でありました670は前倒しで達成してございます。この開催日数につきましては先ほど車両室長さんからも御説明いただきましたが、業界から車両室に対しまして上限の緩和をお願いしておりました。その結果、昨年度省令改正をいただいたことから、1施行者当たりの上限が126から162日に緩和され、2023年度ではさらに705日に拡大する予定となっております。

3点目といたしまして、2021年度の施行者収益は5市の合計で23.6億円に達し、当初の目標であります18億円は達成しております。しかしながら、他の公営競技と比較いたしましてもオートレースに関しましては売上げに対する収益率が低いことから、さらなる上乘せを検討してまいりたいと考えております。

2ページをお願いいたします。2022年の振り返りと2023年度の予定でございますが、オートレースのアクションプラン、7つのカテゴリーに施策を分類してございます。上から順に御説明させていただきます。

まず、「効率的な日程編成」でございますが、2022年度は無観客のため、警備費等の開催経費を削減できるミッドナイトレースを39日間増加させたほか、売上規模の大きいSGレースはこれまで5日制で行ってございましたが、このSGレース、5開催ございますが、そのうち2つの開催を6日制に拡大したり、また、浜松市が山陽場を借り上げてのミッドナイトレースを、オートレースとしては初めて8日間開催できたところでございます。2023年度では開催日数をさらに33日、これはミッドナイトを増加することになりますけれども、併せてまたSG6日制を4つの開催まで拡大するほか、一日の発売時間の拡大、具体的に申し上げますとミッドナイトの最終レースの発走時間を11時50分前後にしたいというふうを考えてございます。この開催日数の増加に伴いまして、適正な選手数の確保の検討を進めるとともに、競走従事者の不足も近年問題になっておりますので、その増員も併せて検討しているところでございます。

次に、競走体系の改善でございます。課題といたしましては、いかに魅力あるレースを編成しアピールしていくかでございますが、2022年度は他の競技も参考にさせていただき、一日に同じ選手が2回乗車するレースを実施したほか、GⅡレースを1つ新たに新設いたしました。2023年度は2回乗りの企画レースをどのぐらい増やせるかはまだ検討中ですが、企画レースの2回乗りを増やすとか、地区対抗戦などを検討してまいりたいと思っております。

次に、選手の養成関係ですが、課題といたしましては選手の応募者数が女子を中心に頭打ちであることが挙げられますが、それで、これまで選手の募集はオートの場合は2年に1回の隔年募集でございました。2年に1回、20名という募集でございましたが、昨年の36期生から毎年10名程度の募集に切り替えました。結果、2022年度は12名が卒業いたしました。また、新たな方法といたしまして、自分の走行状態を確認するためのビデオの導入のほかに、自分の走行軌跡を確認できるGPSを活用した訓練を実施してございます。そして2023年度は、この4月に37期生の13名が筑波の養成所に入寮し、来年1月の卒業を目指して訓練に励んでいるところでございますが、併せて募集につきましてはバイクファン層へ訴える周知拡大に努めてまいりたいと考えてございます。

次に、公式投票サイト及び公式キャッシュレスでございますが、2022年度は公式サイトを一新しまして、スマホで見やすく使いやすく投票しやすくしたほか、これで民間と同様になったのですけれども、クレジットカードやペイジー等からの入金などを決済手段として追加させていただきました。そしてまた、2023年度は公式でキャッシュレス投票を4月から川口で導入いたしました。今後数年をかけてキャッシュレスの普及に努め、また公式サイトで10月を目途に重勝式車券の発売を予定してございます。これは、最近公式サイトの発売シェアが全体的に低下している傾向にあることから、公式サイトの活性化に努めるという意味合いで導入したいと考えてございます。

次に、車載カメラでございますが、昨年は映像を御覧いただきましたが、2022年度は映像の通信伝送の段取りとかカメラの小型化、取付け位置の変更、バイクが転倒した際の機器飛散防止策など、技術的な点の調整を行いました。2023年度はさらに映像配信と運用手順の詰めを進め、さらにどのレースを対象にするのか、また映像の提供範囲の調整を行い、今年度で全場での試行配信を目指しているところでございます。

次に、民間事業者との連携でございます。これは競輪さんを追いかけている形になりますけれども、2022年度は民間サイトからデータを提供いただき、性別・年代別・サイト別に利用者のデータを分析させていただきましたが、今後どう活用していくかは課題となっております。

最後にプロモーションでございますが、オートレースの場合は他の公営競技と比較いたしまして全国的にもレース場が少ないこと、全国的な知名度に劣り、また、とりわけ認知拡大が課題となっております。そんな中でも、2022年度はYouTube等SNSを中心にPRを実施させていただいたほか、YouTubeで全てのレースの映像を配信して

ございます。そして2023年度でございますが、S Gの優勝戦、B Sの放送枠を増やすほか、公式キャッシュレスや公式の重勝式発売につきましてはS N Sを中心に予算の許す限りP Rさせていただきたいと考えてございます。

3 ページをお願いいたします。3 ページ、事故対策の進捗、その後の進捗について御説明いたします。昨年2021年の後半から2022年の4月に発生いたしました、選手2名、競走従事者1名、都合3件の重大事故を受けまして、業界といたしましては、昨年になりますが、①施設、②競走車、③選手に対する安全意識の啓発、④救護の4項目につきまして再発防止策を講じることといたしましたが、その進捗状況でございます。

まず、1点目の施設対策でございますが、コース外周のネットフェンスの緩衝柵についてでございます。柵の支柱部分への緩衝材の取付けをこれまではコーナー外側に限定しておりましたが、今回こういう事故がございましたので、直線を含む全周の支柱に緩衝材を設置することにいたし、2022年度には4場で設置済みであり、山陽場だけは2023年、今年の夏の工事に合わせて設置することにしてございます。また、緩衝柵の点検につきましては、2022年度中、事故直後に5場で点検を完了しておりまして、修繕が必要な箇所につきましては措置を実施してございます。さらに、緩衝柵点検要領の策定も完了しており、今後、年1回のペースで緩衝柵の定期点検を専門業者に委託して実施することといたします。

次に、コース内側で待機している救護員の安全確保のため、タイヤ等緩衝材の設置でございますが、5場全てで写真のとおり設置済みとなっております。

4 ページをお願いいたします。2点目といたしまして、競走車の対策でございます。安全性向上のため、キャブレターの混合気吸入量抑制やリヤスプロケットの歯数を変更した試作品を製作し、走行テストを行いました。その結果ですが、次の試みとしてはミッションの歯数変更を行うことになり、今後走行テストを行い検証を進める予定ですが、スピード抑制策につきましてはバイクレースの迫力を削ぐことにもなり、レースそのものの魅力や性格を変えてしまう重大な事項でございますので、今後引き続き専門部会で慎重に検討してまいりたいと考えてございます。

3点目といたしまして、安全意識の啓発でございますが、選手会におきまして、400名ほどの選手会でございますが、訓練の機会を捉え、選手に対して改めて事故防止に関する注意喚起を行ったところであり、今後も継続して注意喚起は実施してまいります。

最後になりますが、救護についてでございます。まず、選手が競走車から落車した場合、転倒して落車した場合の、救護員の初動対応及び救護のスキルアップのための実地訓練で

ございます。これは8車中4車が同時に、通常は1～2車とかなんですけれども、4～5車が倒れるときがあるんですけれども、4車以上が同時に転倒した場合の対応を想定した訓練を全場で実施したこと。また併せまして、救護マニュアルに基づいた座学の教育訓練も当然実施してございますし、スタート時の救護員の待機位置の見直しということで、バイクが走路の内側に入るという今までにない事故がございましたので、待機位置の見直しにつきまして全場で運用の見直しを行ったということでございます。

以上が事故再発防止策の進捗でございますが、引き続き重大な事故が発生しないよう、業界全体で真摯に取り組んでまいりたいと考えております。

5ページ、最後をお願いいたします。2023年度～2025年度の取組でございますが、インターネット経由での発売額がオートにつきましても8割を超えているという現状に鑑みまして、最終売上目標である1,200億円を達成するため、2ページで、先ほど申し上げましたIT技術を活用したデジタル戦略を中心にプロモーションを行いながら、また、省令改正をいただきましたので適正な選手数の確保や競走関係者の増員も同時に進めながら、開催日数の増によりまして、これから3年間、売上げ向上、収支改善に努めてまいりたいというふうになっております。

ここからは資料にございせんけれども、冒頭で営業活動収支につきましてはオートの場合は約24億円の黒字を確保しているというアナウンスをさせていただきましたが、実際オートレースから各市の自治体への繰り出しは5つございますが、3市でできてございせん。また、業界といたしまして、大阪・関西万博に対して、競輪さんとは異なりまして残念ながら協賛もできておりません。協賛につきましては、この20年以上オートレースの場合はできておりません。現在は若干回復基調ではございますけれども、その理由につきましては、2市が過去からの累積赤字がまだ10億円程度、2市に累積赤字がありまして解消中でございますし、また1市につきましては大規模な施設改修をしていることから、一般会計に入れられないという状況でございます。併せて、選手の賞金も一度下げたこともございますので、選手の賞金のアップも同時に進めながら、また施設の改修・更新も同時に進めながらということの中で、苦しい中でも早期に全ての場で各市の一般会計に繰り出せるよう、さらなる収支改善にいろいろ手を尽くしてまいりたいというふうに思っております。

また、併せまして、ギャンブル等依存症対策につきましては他の公営競技と歩調を合わせつつ推進することを申し添えさせていただきます。

オートレースに関しましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○三屋委員長 ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御質問があれば頂戴したいと思います。大変申し訳ございません、時間の制約がございますので、お1人当たり3分程度で御発言いただければと思います。

まず、絹代委員が、そろそろ御退出のお時間も迫ってまいりましたので、最初に御指名をさせていただきます。お願いいたします。

○絹代委員 ありがとうございます。絹代です。丁寧な御説明をどうもありがとうございました。

私からは、女子のことについて意見を述べさせていただきたいと思います。お話の中にあったような魅力度をアップしていく、その中でリクルートをどうするか、有力な選手たちをどうリクルートするか。プラス、今はアスリートが根性という時代ではなくなっていますので、どうモチベーションを高めていただくかというところがあるかと思います。ハードが追いついていないというお話があったんですが、もしかするとそれよりもソフトの部分の方がより根強いというか、根深い問題があるのではないかというふうに感じています。やはり競輪は人を扱うものですので、人は非常に重要だと思うんですけども、例えば女子選手の中で見ていくと、何名かもう既に出産を終えられている選手がいらっしゃいます。女性にとってライフプランを描く中で結婚・出産というのは非常に大きなところではあるんですが、例えば出産をするとき、産休を取る期間、それが帝王切開なのか、無事に分娩できるのか、その後どうなるのかというところでも変わってくると思うんですが、そういったことを相談できるような方が組織の中にいるのか。例えばOGの方が幹部にいて話を聞いてくれるとか、女性の支部長さんがいらして話を聞いてくれるとか、割と競輪は歴史が長くなっていますので、そういった師弟関係であったり人間関係はしっかりしていると思うんですが、ちょっと体の違う女子の特性、女子が抱きがちなものに対して今対応できるような状況になっているのかなというのを感じました。

プラス、中の風通しというか、女性たち——まあ、男性もそうなんですが、選手たちの声が今上がる状態になっているのか。というのも、男性でこれだけ長い歴史をつくってきた競技ですので、全てが男性が前提でできているものが多いと思うんですね。その中で女性がそぐわないものもあると思います。そういったときに女性たちの声が上がって、それで話し合いをしてモチベーションを持ってもらえる、気持ちよくトライができる。もしかし

たら先端トレーニングよりもそういったところのほうが選手たちにとっては大きいのではないかなというふうにも感じます。先ほどお風呂の話もありましたが、恐らく女子の選手は決められた時間に入らなければいけなくて、なかなか男子優先だというふうに感じるところからも、彼女たちの自分たちにリスペクトがあるのかないか、そういったところでもモチベーションは変わってくると思います。ママレーサーであったり小柄なレーサーとか、そういった際立った女性選手はマスコミにも取っていただきやすいものですし、ぜひそういったところもしっかりやっていただきたいと。

今、小柄と申し上げたのは、1点ちょっと気になっているのが、自転車は機材スポーツです。ですが、女子はカーボンのフレームを使っていて、男子のようにビルダーさんが体に合わせてつくってくれるという状況ではないと思うんですね。それが、例えば150センチない小柄な選手が自分の体に合ったバイクで戦えているのか。また、カーボンフレームは高価ですので、例えば落車をして補修が必要になったときに彼女たちがどうそれにお金を使って補修するのか。そういったところも、ちょっと男性と女性と、今の競技形態ではアンバランスなものもあるのではないかなというふうに感じました。ぜひそういったところも高めていただいて、選手たち自身が自分たちがミッションを持っていると思って輝いてくれるような、何かそういった選手になってくれたらいいなというふうに思います。

すみません、ちょっと3分を超えました。私からは以上です。

○三屋委員長 ありがとうございました。何かお答えできるようなことがありましたら。

○安田理事長 競輪選手会の安田です。どうぞよろしくお願いいたします。

おっしゃるとおり、本当に今からガールズの選手が夢を持って取り組めるような環境づくりというものについては、これまでもいろいろ取り組んで、そして発信させていただきまして、業界の中で公正・安全というものが前提ではありますが、環境整備については取り組んでいる最中であるというふうに申し上げたいとは思っています。

出産に対して申し上げますと、まず妊娠が発覚してから、その間からレース復帰、出産を経て一定期間休むこと、これに対しましては身分の保障というものはしております。1年半というもののプラス、体調不良がありますとさらに半年という。その間、身分の保障をします。保留をかけて、走らなくても代謝制度にかからないという保障になっております。ただ、その間の収入減、そういったものについては今現在構築されてはおりませんが、今後この辺りについては選手共済制度、こちらのほうは関係団体との関わりもありますので、本会としては売上げ動向・収益動向を見ながらではありますが、しっかりと構築できれば

と思っております。

また、相談窓口に関しまして、これは男子もそうなんですが、心の悩みに関して、あるいは女子特有の相談事というものについては、どうしても各支部長さんが男子しか配置されていないという現状があります。そういったものに対しては窓口を特別に設定しておりまして、ガールズOGであります。本会の窓口担当といいますかガールズ担当という形で1名職員を採用しております。そちらの窓口のほうから、適宜必要なところに相談窓口を紹介するであるとか、そういった対応で今行っております。これは、心のケアというのは男女問わず、メンタルについては新たに、ちょっと今どきの時代では本当に専門家に頼らなければいけない部分もあるかと思っておりますので、それは適宜回しているというような状態にしております。

フレームに関しては、これは私どもというよりもJKAさんの担当にもなろうかと思いますが、今現在では150センチ台の対応ができる——かろうじてではありますが、フレームメーカーさんはあるのですが、細やかなサイズということに対してはカーボンであるので限界があるかとは思っています。その辺りは今後の課題なのかなと、そういうふうに思っております。

私からは以上です。

○三屋委員長 ありがとうございました。よろしいですか。

笹部会長。

○笹部会長 ガールズの件で幾つかのポイントでの御質問ということで、まず出産の件ですね。2012年以降の部分、最初は30人前後から今や190名近くまで、ここ2020～2021年にかけては歴年で凸凹ありますけれども10人前後、また少ないときで数人。産休というか、育児という部分を含めると、大体復帰するまでには500日前後、1年半ぐらいですかね、それで復帰されてくるということ。

それとあと、先ほど安田理事長のほうからもあったとおり、競輪は級班審査というのをやっております、これについても妊娠・出産を踏まえた考えを導入しております、この制度も2015年に制定して現在に至っております。

それとあと、カーボンフレームの件ですね。これも女子競輪の復活という視点で、こういうイメージではないかということで、競技規則も、横の動きを極力抑えた、直進性のあるということで当時考案したのがカーボンフレームということで、現在そのカーボンという部分が残っている状況ということで、お尋ねの小さいサイズというものも確かに、S・

M・Lというサイズが標準系で金型であるらしいんですけれども、調べると中にはS Sというのも既にあるらしいんですけれども、(市場では)さらに細かい調整ができるようなオーダー制のやつも何かあるやに聞いていると。ただ、当初そういうカーボンでやるというルールという一体の中で関係団体が協議して決めてきた現在に至る内容でございますので、またそういう問題の様々な環境について、選手会、また全輪協のほうとも話をする場というものを通してリブランディングを進めていきたいと、そのように考えております。

○三屋委員長 ありがとうございました。

ほかに。古野委員。

○古野委員 カーボンの話があったんですけれども、CO₂の話をちょっとしたいですけれども。ちょっとすみません。もう釈迦に説法ですが、二酸化炭素を出さないか、木を植えるか、カーボン・オフセットをするかしか方法はなくて、その中で会長をされているBリーグさんも、もちろんJリーグさんも、あるいはJRAさんもJRAゼロということでカーボン・オフセットに取り組んでおられると思うんです。その中で、今私がいろいろお聞きしたり、今の資料もそうですし、ネットなんかで拝見していても、あまりその部分が取り組まれているように見えないんです。もし取り組まれておられるのであればちょっと教えていただきたいし、逆にアピール不足なのであればもう少しアピールされたほうがいいと思いますし、もし取り組まれていないのであれば、やはり電力使用量をしっかり場ごとに、あるいはいろいろ計算をして、それをグリーン電力証書でカーボン・オフセットするという方法がやはりもう今は主流ですので、それに早く取り組まれたほうが、やはり先ほど若い方の投票の確保ということもありましたけれども、これからどんどん、いわゆるSDGsネイティブというか、デジタルネイティブみたいな感じで、もうSDGsは当たり前の世界で生まれてきて物心がついて育っていく人がどんどん増えていく中で、「カーボン・オフセットしていないんですか」というのが当たり前の会話にこれからなっていく時代においては、やはりオートレースはもちろんそうですし、競輪も取り組まれたほうがいいと思います。

ほかにもあるんですけれども、時間があるので、この1点をちょっと御指摘申し上げたいと思います。

○三屋委員長 ありがとうございます。

○奥野理事長 全輪協からお答えいたします。カーボン・オフセットという観点からは微々たる取組かもしれませんが、今、ナイターなりミッドナイトですから照明灯を

つけているんですけれども、従来ハロゲンランプだったのをLED照明に切り替えていると。全体31場にナイター照明はあるんですけれども、そのうち23場が今切り替えて、ほかの場も、先ほど来出ています場の改修と合わせてLED化を進めていると。

それから、競輪場は比較的大きな敷地がありますので、そういう中で、これは3つだけなんですけれども、前橋、松戸、川崎の競輪場は太陽光パネルを設置して一部の電力を賄っているという、そういうような取組みもございます。

あと、これは競輪の収益が先ほど来出ていますように、一般会計に繰り出して地方財政に貢献するということで、その中で、これも首長さんがどう考えるかなんですけれども、今委員から御指摘のあったようなSDGsの取組を意識したような競輪収益の使い方ということを、特に北九州市なんかはこれをアピールして行っているというふうに聞いております。

以上でございます。

○三屋委員長 ありがとうございました。今度何か施策にマッピングしてもいいかなと思ったりはするんですね。SDGsの。そうすると分かりやすいかなという、そんな気はしました。すみません。

ほかにございますでしょうか。すみません、松田委員。

○松田委員 ありがとうございました。自由視点映像の件と養成所の件でお尋ねしたいんですが、映像を事前に送っていただいていたので拝見して、その同じウェブサイトには2人のレジェンドによる「近未来の競輪中継」という解説の動画があって、競輪の魅力がスポーツの視点であったり心理学の視点だったり、すごく科学的に理解できてとても迫力があつたんですね。それだけ魅力のあるコンテンツをこれからつくっていかれるということで、すごく期待をしています。一方で、その動画が掲載されていたYouTubeのサイトなんですけれども、月刊競輪のYouTube、それから競輪の公式のYouTubeサイトも、ほかの同様の公営競技に比べると登録者数がかなり少ないという印象があります。オートレースは多いんですが。この動画によるマーケティングについて今後どのように、せっかくいいコンテンツをお持ちなので、どういうふうにお考えなのかが1点目です。

それから、2つ目は、養成所のハードの見直しをされるに当たって、ソフトも併せて見直すというふうにおっしゃっていたんですが、具体的に養成所のホームページの中のFAQを見ますと、例えば養成所に入っていられっしやる方々は外出は日曜日の昼間にしかできないとか、携帯電話も日曜日しか使えないとか、今のライフスタイルに合わないようなと

ころが間口を狭くしている可能性はないのかどうか、その辺りもお聞きできればと思います。

○三屋委員長 ありがとうございます。これは笹部会長ですか。

○笹部会長 2点御質問がございまして、まず初めに自由視点映像ですね。既にネットのほうで御覧いただいている部分にかぶるかもしれませんが、この映像というのは今までにない、いつもスーパースローでゴールというのはよく見るシーンですけれども、一番そのゴールに突っ込んでくる4コーナーの部分ですね。一番スピードが乗っていて、一番ごちゃつくところ。これは、内圏線という走行は御承知のとおりで、基本このルールの中でどうやって選手は横一線で並んでいくかと。横に出て、そこでいろいろな動きが出ます。時には落車もあります。ただ、S級からA級またはL級ということで、それぞれの個性というんでしょうかね、または技能、技術、またはスピードで追えない部分があの映像で可視化されているということで、今後の利活用については、今までいろいろな情報ガイドということをやってきている中で、ラインという話はよく聞かれていると思います。ただ、このラインという部分がどういう動きで最後は横一線に選手が来るんだという、あれをいろいろな視点で見られる。そういう可能性を探ったということで、非常にこれを新しいファン層、または競輪が分からないというようなこと、または選手の躍動、選手は何を考えてゴールを目指しているかと。そういう技術的な面も、この自由視点カメラの映像である程度かいま見られるのではないかと、そのような期待をしている、今後の展開を考えていきます。

また、養成所ですね。お尋ねの養成所については、御承知のとおり、前までは「競輪学校」と言っていました。学校です。ただ、専門学校という意味では、競輪を志す若い人が早い時期に自分の人生を決めるという、大変な決意を持ってくる人たちです。確かに今の世代というのは携帯が日常生活の必需品と。ただ、御承知のとおり、競輪開催は3泊4日、長ければ7日間拘束される中で、選手は管理されます。その中で携帯は当然のことながら取り上げます。それをこの10か月の養成期間の規律の中で体現してもらおうと。ただ、今回コロナという特殊な状況があったもので、ここ3年間は確かに外出はさせませんでした。ただ、この外出させない分、訓練に集中することができ、この3年間で4名の早期卒業生が出ました。これも大変伸びました。今現在ナショナルで活躍するようになり、やはり厳しい生活という部分は相当精神的にも体力的にも養われるという意味で、携帯が駄目だということではなくて、自分を自己規制するという鍛練というんでしょうかね。ただ、電

話連絡とか家族への連絡は毎日できるようになっているとか。場合によっては、ある特定の日に預けてある携帯を渡して、自分で管理して戻すというもの。こういうルールということでこの養成所生活を理解していただいていると、そのように考えております。

以上です。

○三屋委員長 ありがとうございました。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。大変すみません、申し訳ございません、一応予定をしておりましたお時間となりました。すみません、山本委員、根岸委員におかれましては、また次回によりしくお願いいたします。

○恒藤審議官 いや、まだ大丈夫ですよ。

○三屋委員長 大丈夫ですか。

○恒藤審議官 もしよろしければ。大丈夫です。もし御発言があれば。

○岩城事務局長 すみません、先ほど古野委員の御質問で、CO₂という話で、やっぱりオートという発言がありましたので補足させていただきます。どちらかというと、こちらのほうが大きいかなと思ひまして。

ナイターの投光器につきましては、5場のうちナイター施設は4場ありまして、そのうち3場がLED化されております。あと、太陽光パネルにつきましては残念ながらございませんし、グリーン電力証書も扱ってございません。

肝心のエンジン。やっぱりエネルギーということで、エンジンのお話をさせていただきたいんですけれども、まずバイクの電動化でございます。バイクの電動化、排ガス対策、あとバイオ燃料・合成燃料という、いろいろ検討はしたんですけれども、結果はいずれも見送りという形にさせていただいているんですけれども、そこをちょっと説明させていただきたいんですが。現在ミッドナイトレースは消音マフラーで対応しているんですけれども、当初は電動バイクでやろうという話がありまして、電動バイクを実際に検討してございまして、2019年度になりますと1台製作して走行テストを行ってございます。選手に乗っていただいた感想は、重心がバッテリーで重くなったりなんかしまして、重心が高くなったり、音がしないので後続車との距離感がつかめるかなとかいう話もありましたが、一定レベルの走行にはなるということはあったんですけれども、今回はバイクの性能が一緒になると、今までのレースというのはエンジンの整備も技量のうちだというのがあったんですけれども、そういうのがなくなるということでどうかなという議論はあったんですが、やはりネックとなるのは値段、バッテリーの値段が高くて、現在のバイクというのは

200万円弱になるんですけれども、その数倍かかるということで、まず断念したということでございます。その際に、1場当たりミッドナイトは60台ぐらい最低必要だろうということで、60台ロットでランニングとイニシャルを試算していただいたところ、バッテリーセルの値段が相当高いということで、今後電池の価格が下がったり、全固体電池等の導入がない限りはちょっと見合わせるということでございます。

あと、排ガス対策につきましては、現在の市販バイクの規制はユーロ5なんですけれども、現在のバイク、競走車は600C Cの4サイクルエンジンで、燃料供給方式はキャブレターでインジェクションではございません。ギアはローとトップの2速で、エンジンブレーキでブレーキは無いわけですが、ローでスタートし、100メートルぐらいでもう2速に入ると。ということで、市販の650C Cと比較いただきながら排ガスを測定したところ、やっぱりインジェクション化しても無理だろうという話で、排ガス対策もまずちょっと見送りという形にさせていただきました。あと、バイオ燃料につきましては現在も既にロードレースとかG Tで試験的に導入されてございますけれども、それを承知してございますので、昨年、検討してございますが、バイオ燃料は外国製でございます、まず現行のガソリン価格より高く10倍程度すること。安定的な供給がまだ保証されていないということでこれも見送りにさせていただきましたし、合成燃料につきましても相当まだ先のことだということで、安定供給、価格の低下を待って検討するという状況にさせていただいたということで、いずれも見送りとさせていただきました。

○三屋委員長 ありがとうございます。恒藤審議官のほうからお時間を頂戴しましたので、根岸委員、それから山本委員、一言ずつでも御意見を頂戴できましたらと思います。

○恒藤審議官 5時まで大丈夫です。

○三屋委員長 すみません。

○山本委員 山本です。

競輪中期基本方針の9ページの、全輪協さんから御説明があったところで、施設整備等の協賛競輪を実現して、いよいよ支援対象ということで現実化するということですが、とはいえ、このコロナ禍で非常にその場外というのがちょっとダメージを受けている中で、この状況に合ったような特別な具体的な場外または併売の施設というか、そういうような形が、さっきの資料1みたいに施行者のほうから何か出ているような話がもしあれば教えてください。

○奥野理事長 全輪協・奥野からお答えします。

競輪においてもインターネットでの車券発売が約8割近くに上っていく中で、確かに場間場外であるとか専用場外のシェアというのは落ちてきているんですけども、そうはいっても、やはり全国どの場でも特に大きいレースは買えるようにということで、今の施設整備等協賛競輪の目標とすると最低4場併売はできるようにしようというような、そういう目標を持って取り組んでおるところでございます。これは当然、各施行者さんの御了解を得た上でですね。

○三屋委員長 ありがとうございました。

根岸委員、何かございますでしょうか。

○根岸委員 では、1つだけ。訪日旅行者、インバウンドを取り込む何か計画などがありましたら教えていただければと思っております。理由は、2025年までの予測において月別の成長率がちょっと鈍化している傾向もあると思ったので、ターゲットとするマーケット市場は大きく持っておいたほうがいいかなという観点であります。

○三屋委員長 ありがとうございます。

○奥野理事長 全輪協からお答えいたします。

具体的にまだ動きは出ていないです。先ほどちょっと申し上げましたJ C Iという会社を作っております、これは私ども公益社団である全輪協あるいは公益財団であるJ K Aだとなかなか取り組めないところに機動的に取り組もうと。その中の取組目標の1つとして、今お話にあったインバウンドであるとか、あるいは国内に在住している外国人の方をターゲットにして、例えば当然レース映像なりあるいはオッズ映像に英語のテロップとか中国語のテロップをつけるとか、そういったことから取り組めたらということで、J C Iのほうでこれは取り組んでいこうというふうに今考えているところでございます。

○三屋委員長 ありがとうございました。

本日は、大変有意義な御意見を多数いただきましてありがとうございます。私個人的には、ずっと委員になったときから右肩下がりの数字を見てきておりまして、そこからV字回復をこんなに見事にされたということで、ちょっと感慨深い思いがございます。本当に皆様方の御尽力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

○笹部会長 委員長、ちょっと誠に申し訳なかったんですけども、資料2—2と参考資料をちょっと私のほうで説明するのを飛ばしてしまったもので、申し訳ないんですけどもこれだけちょっと御覧いただければと思います。これは先ほど資料2—1で御説明した5つの追加方針というものを、資料2—2、これは令和3年3月25日に競輪最高会議で

決定した方針でございますが、本日のテーマ、追加方針というものを、参考資料、これは3月30日に競輪最高会議でこの5つの方針を決め、具体的にどういう内容で2025年度に向けて進めていくかというものをまとめたものでございます。したがいまして、参考資料をそれぞれめくっていただきますと、5つの項目それぞれがそれぞれの項目の中に枠組みとして、今回の変更の軌跡を留め置くためにこのような形にし、資料2―2にあるとおり、中期基本方針の中に盛り込むということで、本日の会議、明日最高会議がございます。特段なければ、これを追加方針、統合版として決定するというような予定を考えておりますことを申し添えておきます。

○三屋委員長 ありがとうございました。

○恒藤審議官 委員の皆さん、ざっと見ていただいて、もう一度、何かこれが足りないとか、あるいはぜひというのがあればと思いますが。

○三屋委員長 これは事前に送っていただいている資料でございますので、また何かございましたら事務局のほうに御意見等を。

○恒藤審議官 もし何かあれば、今いただいたほうが。明日ということなので。もし、多分目を通していただいていると思うので。多分、今の御発言の中に含まれていたのではないかというふうに思いますが、よろしいですかね。

○三屋委員長 よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、どうしてもという方がいらっしゃったら明日までに御意見をいただいて。

○恒藤審議官 もし、古野さんも、もう1点何かあるというふうに先ほどおっしゃっていて。

○古野委員 大丈夫です。

○恒藤審議官 大丈夫ですか。

○古野委員 ありがとうございます。

○三屋委員長 ありがとうございました。本日の御議論を踏まえて、中期基本方針に沿った形で、業界一丸となって取り組んでいただきたいと思います。ますますの発展を祈念しております。

以上をもちまして本日の議事は終了となります。

それでは、恒藤審議官から御発言をお願いいたします。

○恒藤審議官 皆様の活発なコメント、どうもありがとうございました。私もお伺いしていて、やっぱり確かにそういう視点はあるなというコメントを多くいただいたと思いま

す。特に最後のほうではインバウンドをどう取り込んでいくのかという話とか、それからSDGsも含めてカーボンニュートラルをやっぱりこれはもう一度考えていかなければいけないのではないかと、それからまた、やっぱり選手の方あるいは職員の方が楽しく働ける、働きやすいというんですかね、魅力ある職場をつくるということがむしろ全体の魅力を上げていくということにつながるというような御意見もいただきまして、いずれも貴重な御意見だと思います。今担当のそれぞれから御回答もいただきましたが、今日いただいた意見も踏まえて、また引き続き検討していただけるということでございます。すぐにはなかなか難しいようなこともあります、それも含めて引き続き皆さんで検討していただいて、いい方向に持って行っていただければと思いますし、また私ども経済産業省としてもできるところで支援をして、それをサポートして、より魅力のある、また社会的還元も増えるように頑張っていきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

○三屋委員長　　ありがとうございました。

それでは、最後に事務局からお願いいたします。

○橋爪室長　　本日の御審議、ありがとうございました。今後の委員会の日程、また議題については、委員長と相談の上、改めて後日御連絡させていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

○三屋委員長　　ありがとうございました。

以上をもちまして閉会といたします。ありがとうございました。

——了——